

組織部速報

2020年11月 5日
No. 6

2020年度年末手当 第4回交渉（会社の考え方）を行なう！

本日举行された第4回交渉にて、会社は現時点の考え方を明らかにしました。

- コロナ禍においても未だ一人の感染者も出さず、現業・非現業問わず「指定公共機関」の役割を果たしてきた社員に感謝を申し上げます。
- 九州においては、豪雨被害による減収を最小限抑えるため慣れない作業にも就いて頂いたが、これらは社員のみならずご家族の協力もあって完遂できた。重ね重ね感謝する。
- コロナ禍によって社会活動は停滞し、5月に緊急事態宣言は解除されたものの、先行き不透明な状況である。10月期単月では+2.3億円(100.2%)と計画を上回っているが、年度初計画からは100億円下方修正したものであり、想定値からは大きく下回っている。
- 現状はリーマンショック後の経営状況にあり、コロナ禍の終わりも見えず、リーマンショックより悪化する事も否定できない。よって、現時点ではリーマンショック後並みを想定している。

これに対し中央本部は、「感謝の言葉は述べられているが、この間の組合員の努力に対する評価が全く見えない。現場はコロナ対策を徹底しながらあらゆる施策に協力し、100%以上の力を出してきた。下期の計画達成にむけても、実践するのは現場の組合員である。目に見える形で、今この断面でどう判断するかである。本日晒された会社の考え方では到底受け入れられない、再考を求めると強く指摘しました。

回答指定日におかれて、現場の声を結集させよう！